

日中戦争期中国占領地に於ける日本軍兵士による日本語授業の再構成の試み
公文書と戦争文学から

資料編

中村 重穂
nkmrs@isc.hokudai.ac.jp

史料中の日本語教育記述の内容分類

略号：『蒐録』…『治安工作経験蒐録』/例：1-29…「第一輯 29 ページ」

『日記』…『宣撫日記』

『陸戦』…『陸戦隊宣撫記』

『兵隊』…『兵隊先生』

原文の段落は省略して引用した。

A. 教科書学習

1. 『蒐録』 1-29

日語教育八主トシテ高年次ニ於テ宣撫班本部編日本語会話読本ヲ採用ス。

2. 『蒐録』 3-24

日語八宣撫班本部編、日本語会話読本ヲ以テ一日一回実施ス(終礼前ニ於テ実施ス)。

3. 『蒐録』 5-73

臨時政府教育部制定ノ小学校教科書及宣撫班発行ノ日語教科書、防共読本ヲ配布教材ノ普及ニ努ム。

4. 『蒐録』 8-45

…小学校ニ宣撫班編纂ノ教科書ヲ具ヘ付ケシメ、吾々ハ内地編纂ノ日支語辞書ヲ使用シタリ。

5. 『蒐録』 10-83

是ハ日本語教授ニ関スル実験談ナルモ、一応或教材終了ト同時ニ生徒ヲ引率シ、有ルモノ、見ユルモノ、聞ユルモノ其ノ他各種ノ実物ニ接シテ實際ニ教授シ、道路ヲ、野原ヲ、商店ヲト行クトキハ色々ノ材料アリ興味ニ惹カレテ比較的ニ早ク役ニ立ツ言葉ヲ覚エシコトアリ、但シ五十音ノ発音ハ確實ニナシ且ツ書キ得ル迄教育シタル後ナルヲ要ス。

6. 『蒐録』 10-87

…去ル三月二十四日守備隊ニ於テ日本語読本(一巻、二巻)ヲ編纂交付シ児童八之ヲ修学中ナリ。

7. 『先生』 pp.117-118

日章旗と五色旗とを持って、何処の国の旗かを教へ、其色を教へ、両旗を交叉して見せて、其処に何が生まれるかを教へた。…(中略)…「さうです。此の二つの旗の下には王道楽土が築かれるのです」「ユカイデスネ」「愉快です」此の会話は体操の時間、或ひは休み時間を利用して一日一回は必ず復習させた。

【参照】：宣撫班本部編『日本語会話読本 巻二』「一 国旗」

「コレハ何処ノ国ノ国旗デスカ。」「コレハ支那ノ国旗デス。」「赤、黄色、藍、白、黒、皆デ五色デス。」

「ソオデス。コノ五色ノ旗ノ下ニ、王道楽土ガ築カレルノデス。」「愉快デスネ。」「愉快デスネ。」

B.五十音・文字・発音

1. 『蒐録』 10-83

是ハ日本語教授ニ関スル実験談ナルモ、一応或教材終了ト同時ニ生徒ヲ引率シ、有ルモノ、見ユルモノ、聞ユルモノ其ノ他各種ノ実物ニ接シテ實際ニ教授シ、道路ヲ、野原ヲ、商店ヲト行クトキハ色々ノ材料アリ興味ニ惹カレテ比較的二早ク役ニ立ツ言葉ヲ覚エシコトアリ、但シ五十音ノ発音ハ確實ニナシ且ツ書キ得ル迄教育シタル後ナルヲ要ス。

2. 『蒐録』 1-93

五十音表ニ依リ母音ヨリ始メ一字宛発音シ口形ヲ示シ復唱セシメ漸次演練ス 例ヘバ漢字「阿」ヲ示シ「ア」ト連想シ同意語ナルコトヲ教ヘ指導ヲ進メ漸次単語ノ教授ヲナスモノトス即チ「ア」ト「カ」ヲ連語シテ「赤」ヲ知ラシメ「イ」ト「ケ」ヲ結ヒテ「池」ヲ理解セシムル如クス

3. 『蒐録』 1-107

…形式上日語、支那語算術、図画、体操ト分科時間表ヲ作成ハシタガ實際ニ於テ日語教材ヲ中心ニ合科教授ノ方法ヲ取ツタ。例ヘバ日語教材ノ第一国旗ノ教材デ修身モヤレバ歴史モヤリ唱歌モヤリ図画モヤッタ。但シ日本語ノ発声ハ充分訓練シヨウト思ヒ指導シタ。

4. 『蒐録』 9-13

現在ハ、イ、ロ、ハ、ヲ終了シ簡単ナル単語ヲ教育シアリ。

5. 『日記』 p.5

宣撫用レコードを聞かす。アイウエオの音読練習。

6. 『先生』 pp.46-47

私が一番苦労したのは発音である。五十音は完全に発音し得ても単語になったり、文章になったりすると満足な発音にはならなかった。...(中略)...時折私はこんな方法さへもとって見た。卵と煙草を両手に持って、「これは何ですか、これは何ですか」と連続的な質問を發し、「タバコ、タマゴ、タマゴ、タバコ、タバコ、タマゴ」と答えさしたが、私達のやうな発音にはならなかった。

C. 号令

1. 『蒐録』 6-13

…日本語ノ教授ハ特ニ号令ニ関スル事ヲ第一ニ教ヘ、次第二日本語ノ号令ニヨツテ動作ガ出来ル様ニスル。

2. 『蒐録』 8-34

…体操ニ於ケル呼唱モ日語支那語ヲ交互ニ掛ケシムル等必要ナリ。

3. 『蒐録』 10-56

第一区(上倉鎮周田部落)ノ青訓指導者五十三名ヲ集合セシメ明二十日ヨリノ青年訓練実施ニ就イテ細部ヲ打合せナシ科目ヲ実習セシメ簡単ナル日本語(号令詞)ヲ教授ス。

D. 唱歌・行進曲

1. 『蒐録』 2-35

課目ハ常識読本、修身、公民、算術、図画、手工、体操、衛生学、日語(会話唱歌)防共唱歌等課目一般ノ教授ハ支那側教員ヲシテ之ヲ担任セシム。

2. 『蒐録』 8-3

…日語ニ依ル行進曲ハ殆ト之ヲ理解シ、皇軍依存ノ念ヲ益々深メ、宣布上至大ノ効果ヲ収メタリ。

3. 『陸戦』 p.113

それで、一つ日本語だけで教育してみようといふことになった。やり遂げられるならその方がよいことは判り切つてゐる。途中でいろいろの不都合が起こるだらうが、それを石に嚙りついてやり遂げようといふ意気込みでやった。...(中略)...紀元二千六百年の歌、愛馬行進曲、サクラサクラなどの歌も上手に覚える。

E. 会話指導

1. 『蒐録』 2-35

課目八常識読本、修身、公民、算術、図画、手工、体操、衛生学、日語(会話唱歌)防共唱歌等課目一般ノ教授
八支那側教員ヲシテ之ヲ担任セシム。

2. 『先生』 p.43

会話の方法は私が商人になれば生徒が客になり、生徒が商人になれば私が客になり、反覆練習せしめたのである。そして適当な時期に日本語を消して支那語だけを黒板に残し、私と生徒、又は生徒同士に前と同じやうに練習せしめて、徹底的に彼等の頭へ詰め込んでしまふ。それから二人の生徒を指名し、一人を商人に、一人を客に仕立てて、「此の店には、沢山な梨を売ってゐる。値段は一つ十銭、これを二つ買って来い」といふ、いろいろな応用問題を出して練習させた。かくて完全に覚えたと思つた時、次の会話に進むのである。

3. 『先生』 pp.133-138

次に私は、黒板へ商取引の会話を書いた。借光 請来、請坐 這雞蛋怎麼樣呢 很好 給我瞧一瞧
請看 一個多少錢 一個五錢 少算点罷 那麼就算四錢 給我五個 二十錢 再見 謝々你
「次は売買人の会話をやりませう。先生は商人になり、みんなはお客になる」生徒の手が挙がる、私は一生徒を指した。「ゴメンクダサイ」「いらっしやい。どうぞ、おかけなさい」「コノタマゴ、ドウデスカ」「大変よいです」「チョット、ミセテクダサイ」「どうぞ、ごらん下さい」「ヒトツ、イクラデスカ」「一つ五銭です」「スコシ、マケナサイ」「では、四銭にいたませう」「五ツ、クダサイ」「二十銭です」「サヨウナラ」「有難うございます」終ると二人の生徒を指して、黒板の字を指しながら会話をさせ、更に「張の店では沢山西瓜を売って居ります。一個十銭ですが、張は八銭にまけるさうです。龍、お前は、其の西瓜を五つ買ってくるのです。さア」といふ応用問題を出したが、どの生徒も、どの生徒も、日本語で滔々とやりのけるので一行は感心して聞いてゐた。...(中略)...終りに私の最も難関である、私の支那語の問ひに生徒達が日本語で答へる。...(中略)...後で物嗤ひになるのではないかと、こんな事を考えると、此の会話だけは遠慮したかったが、私は思ひ切って一生徒を指した。「貴姓」「ハイ、ワタクシワ、王トイマス」「你的父親在家麼」「ワタクシノオトウサンワ、ウチニオリマセン」「上那兒去了呢」「ケンコウショへ、ユキマシタ」「你的哥哥在家麼」「ワタクシノオニイサンワ、イマ、ウチニオリマセン」「上那兒去了呢」「ガクコウヘユキマシタ」「明白日本語麼」「ニッポンゴワ、スコシワカリマス」「先生是那地方的人」「ニッポンノ、ヘイタイサンデス」「今日は星期幾」「キョウワ、ゲツヨウビデス」「現在幾点鐘」「イマ、ニジ十五フンデス」...(中略)...一時間以上になつたので、「大体、今のところ此の程度であります」と、一先づ授業を切上げたのである。

F. 単語提示

1. 『蒐録』 1-93

五十音表二依り母音ヨリ始メ一字宛発音シ口形ヲ示シ復唱セシメ漸次演練ス 例へバ漢字「阿」ヲ示シ「ア」ト連想シ同意語ナルコトヲ教へ指導ヲ進メ漸次単語ノ教授ヲナスモノトス即チ「ア」ト「カ」ヲ連語シテ「赤」ヲ知ラシメ「イ」ト「ケ」ヲ結ヒテ「池」ヲ理解セシムル如クス

2. 『先生』 pp.24-27

一日に生徒に詰め込む単語は約二十種位で、それを一日で完全に覚えさせようといふ方針を立てた。そして支那語を知らない私が教室で使ふ言葉は「これは、日本語で何と言ひますか」「これは、中国語で何と言ひますか」の二つだけである。はじめからこんな大胆な教授法は恐らく何処の国にもあるまい。...(中略)...私は先ず今日教へる単語の謄写刷りを生徒へ手渡し、同じ事を黒板へ書きつける。...(中略)...そして生徒に再三再四、日本語を読まして其の発音と綴りを覚え込ませた。「タマゴ、中国語では何と言ひますか」「チータン」私は生徒の答へで、逸早く手許の紙へ振仮名をする。...(中略)...斯うして一日二十種位の単語を私が教へ、彼等は私に支那語を教へたのである。「ピングワ、日本語では何と言ひますか」「リンゴデス」「チータンは」「タマゴデス」此の場合の私の発音などは、彼等の日本語よりも、もっとひどいものであつたに違ひない、然し彼等は笑ひもせず、慌てて謄写刷りを拵げて探し出し答へるのである。

G．手真似・身振り

1．『蒐録』1-92

最も困難ヲ感ジタルハ言語ナリ教授者ノ意志ヲ通ジ其ノ思想ヲ表現スベキ支那語ヲ知ラズ己ムヲ得ズ手真似身振り等ヲ以テ臆ク乍ラ疏通スルニ過ギズ教育ノ道ノ真実ナル姿想ヲ正シク凝視シ健カニ育テ行クニ対者ニ通ズベキ言語ヲ解セザルハ理論的ニ最も冒険ナ而シテ「カラクリ」ナ教育トシテ情ケナサヲ知ルニ至ツタ

2．『先生』pp.15-16

「教室では行儀よく勉強しなければならない。そして一番早く日本語を覚えたものには褒美をあげよう」といふことを、手真似、足真似、日本語と支那語のチャンポンで話した。

H．他教科も日本語で教授

1．『蒐録』2-35

衛生学、算術、体操、日常会話、日本語等全部日語ヲ以テ教授ス。

2．『蒐録』5-63

…体育ニハ勉メテ日語ヲ使用セシメ月例運動会ノ実施ヲナシ体育ノ向上ト皇軍トノ融和ヲ期ス

I．書き方・作文

1．『蒐録』1-93

板書ノ上各児ニ書キ方ヲ演練セシム

J．絵本の説明

1．『日記』p.36

日本語をやり綱引きをやり、引っぱり合ひをやり、日本語の絵本の説明をしてやり、今日はそれで終りにした。

K．校外実物教育

1．『蒐録』10-83

是ハ日本語教授ニ関スル実験談ナルモ、一応或教材終了ト同時ニ生徒ヲ引率シ、有ルモノ、見ユルモノ、聞ユルモノ其ノ他各種ノ実物ニ接シテ實際ニ教授シ、道路ヲ、野原ヲ、商店ヲト行クトキハ色々ノ材料アリ興味ニ惹カレテ比較的ニ早く役ニ立ツ言葉ヲ覚エシコトアリ、但シ五十音ノ発音ハ確實ニナシ且ツ書キ得ル迄教育シタル後ナルヲ要ス。

L．合科教授

1．『蒐録』1-107

…形式上日語、支那語算術、図画、体操ト分科時間表ヲ作成ハシタガ實際ニ於テ日語教材ヲ中心ニ合科教授ノ方法ヲ取ツタ。例ヘバ日語教材ノ第一国旗ノ教材デ修身モヤレバ歴史モヤリ唱歌モヤリ図画モヤツタ。但シ日本語ノ発声ハ充分訓練シヨウト思ヒ指導シタ。

M．遊戯

1．『日記』p.5

次は遊戯だ。私は「ハナ」とか「ミミ」とか叫ぶと彼等は鼻や耳の絵を画いてある紙の下に集まらねばならぬのだ。

N. 補足

1. 『日記』 p.52...日本語教育の結果の実態

今、彼等が普通に出来る日本語は次の通りである。

アイウエオ、カキクケコ、ハナ、メ、クチ、ミミ、カオ、ウマ、イヌ、サシセソ、ウミノミミ、ウマノカオ
...ウシ、ワタシ、アナタ、ハタ

2. 『先生』 p.7-8...褒美で釣る教育

「今日で、五十音字の半分は、充分読めるやうになったし、又書けるやうにもなった。みんなが一所懸命勉強したからである。其の努力に対して褒美をやらう」と、私は狭い校庭に生徒達を一行にならべて、附近の店から南京豆を買い求め、護衛して来た田中上等兵と西田一等兵に手伝わせて、一掴みづつ平等に分配した。

3. 『先生』 p.16...褒美で釣る教育

「学校で使ふ鉛筆、紙、雑記帳、それからお菓子もやらう。だから、みんなは一所懸命日本語を覚えなければならぬ」

4. 『先生』 p.17...褒美で釣る教育

褒美といふ餌で、第一班、第二班は兎も角も、第三班の生徒へは五十音字を一週間足らずで徹底的に叩き込んでしまった。

5. 『先生』 p.27...褒美で釣る教育

「今天很好、完了(今日は大変よく出来た。終り)」と、褒めて、「明日は今日のところを質問するから、何処を質問されても見ないで答へられるやうによく覚えて来い。全部覚へたものには褒美を沢山やるぞ」と附加へると彼等は手を叩いて喜ぶのだ。

6. 『蒐録』 2-31...褒美で釣る教育

宣撫班二担当セシメ隔日二一時間日語教育ヲ実施シ終レバ蓄音機ヲ聞カセ雑誌菓子ヲ与ヘ帰宅セシムル方法ヲ講ジタルニ逐次数ヲ増シ男女合シテ五十余名トナリタリ。

7. 『先生』 pp.23-24...背景となる「軍人精神」

勿論、日語講師の命令を貰った時も、支那語は全然出来ないからといふ理由で再三辞退したのであるが、「そんな事は理由にならぬ。それは日本語を教へるなどと固苦しい事を考へるからだ。要は宣撫である。...(中略)...総ては軍人精神にある」と、中隊長や准尉に煽てられ、それではと、此の大任を引受けてしまったのである。煽てにウマウマ乗った訳ではないが総ては軍人精神にあるといふ言葉が私の心を強く打ったからであった。前進、前進、倒れて後止む。

8. 『先生』 pp.51-52...背景となる競争意識

「何とか、小学校の費用も」と、部隊本部の主任将校や係り下士官に再三頼んだけれども、「青年訓練所の費用はあるが、小学校の費用はない」と、何時もはねつけられた。青年の訓練も、児童の訓練も、落ち行く先は同じ大東亜建設といふ大きな目的である。何故、軍隊用語の臨機応変といふ字句を広義に解釈してくれないのかと、私は腹立たしかった。

9. 『先生』 p.57...背景となる競争意識

「どうだ小学校の方などは、うまく行ってるかい。小孩連中少しは日本語を覚えたか」青年訓練所の方などは、実によく出来るよ。日語としては漸く五十音を覚えた位だが、教練などは素晴らしいものだぜ」鼻高々と自慢した。私は私で小学校教育を主張する。結局議論が高じて喧嘩別れになるのが常であった。「今に見ろ、学校は小学校の仲間に入ってゐないが、精神に於て、日本語に於て必ず徐州一の日語学校にしてみせる」私は憤慨しつつ自身に鞭打つてゐた。

10. 『先生』 p.174...背景となる競争意識

郊外の貧弱小学校が、市内の十六校を圧倒して此の最大栄誉をかち得たことは、部隊長の精神的、物質的な援助と中隊長始め将校下士官、兵の心からなる後援があったからである。「とうとう徐州一の小学校になった」私の念願が実現された。うづくやうな誇りが全身に溢れて来るやうな感じをどうすることも出来なかった。